
ウサギとカメ

問道 火偉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ウサギとカメ

【Zコード】

Z9184F

【作者名】

問道 火偉

【あらすじ】

足のはやい動物が一番「えらい」という変わった山。そこに暮らす足の遅いカメさんはいつもみんなにバカにされていた。そんなある日みんなを見返してやろうと一番足のはやいウサギさんにかけっこ挑むのだが……

(前書き)

誰もが一度は読んだ事のある童話、ウサギとカメ。
けれど、これは誰も見た事も聞いた事もない童話。
こんな話だつたらいいのになと思つて書いてみました。
そんなウサギとカメをどうぞ……

「これは、遠い遠い国のお話

あるところに山がありました

ふつつの生き物は「つよい」が「えらい」なの

その山の生き物たちは「はやい」が「えらい」でした

だから、その山で一番「えらい」のは、力持ちのクマさんでもなく、おつこつなキッネさんでもなく、足のはやいウサギさんでした
そして、足のおそいカメさんは一番「えらい」じゃないでした

「えらい」じゃないカメさんはいつもみんなにバカにされました

「やあ、カメさん。君はいつもノロノロして大変そうだね」

「やあ、カメさん。一休みかい？ああ、違ったそれでも「ひ」というんだね」

みんなにバカにされたカメさんはとつともくやしくなりました。

そんなんある山、カメさんはみんなをみかえしたくなつて

ウサギさんとかけっこをしようと思こました

ウサギさんは「ヨで一番「はやこ」で一番「えらこ」です

誰もウサギさんにかけっこで挑もうなんて思わないほどです

だから、そんなウサギさんにかけっこで勝てば

あつとみんなにバカにされなくなると思つたのです

「やこ、つせわせ。僕とのけべんまでかけっこでしょつぶし
る」

「カメさん……あみじや僕にかてないよ？」

「そんなのやつてみなけりや分からぬだろー。」

カメさんはウサギさんの言葉に耳をかざすかけっこは始まってしまいました

いました

ウサギさんは山の下へんまであと少しところまできても

カメさんはまだ下の方にいました

（「のまじや僕が勝つてしまふ……

そうなればカメさんはまたみんなにバカにされねやつだね……

それはかわいそうだな……よし、いひよひーーー(

ウサギさんはカメさんが可哀想に思い、われと負けようと

近くの木にもたれかかると居眠りをはじめました

じねぐらーの時間がたつたでしょ

(もう、もうそろこいかな……？)

ウサギさんがそう思つて田を覚ますと、

「やあ、ウサギさんお田覚めかい？」

田の前にカメさんがいました

「それじゃあ、勝負をそこかいしよひ」

「カメさんー、ビリして僕が眠つている間にホールしなかつたんだい
？」

そつたずねたウサギさんにカメさんは言いました

「そんなズルをして君に勝つても意味がないー僕は正々堂々勝ちたいんだ！」

ウサギさんはカメさんにズルをさせようとした事を恥ずかしく思い

ました

かけつ「ジガセイカイイサルトウサギさんもこきり走りました
そして一気に山の入り口まで行き、かけつ「ジガセイカイイサルトウサギさんの勝ち
になりました

「やつぱつウサギさんはやつがはやいな～オーリよつのうまなカメさん
に負けるわけないよ」

ヤツハリたのはクマさんでした

「すばやい私でもかなわないのにのうまなカメさんはかなうはずな
いよ。

そんな事もわからないなんてカメさんはバカだな」

と、キシネさんが言いました

カメさんはやつてやつてなれだしありになつました

かねと、ウサギさんがあいつたのです

「山の山口一番」「えらご」はるの僕だ

やの山葉にみんながつなづきました

「でも、一番山口」「えらご」はカメさんだ

けれど、この言葉にはみんなビックリしました

「ええー..」「えいひじー..」

「オラ、カメやんよつずと『せやー』よー..」「私もですー。」

不満そうなクマさんとキッズさんにウサギさんは言いました

「君たちは僕に敵わないからとせじめかいあせりあていた。」

けどカメさんは正々堂々、僕と勝負した。

スタートラインに立つ」とやうに出来なかつた君達より

ずっと「えりこ」「だるいへ..」

クマさんもキッズさんも何も言ひ返せませんでした。

そして、ウサギさんは言いました。

「一番『えりこ』僕の命令で今日から一番『えりこ』はカメやんこ
ある」とー。」

「ええつー..」

これにはみんなみんなとてもビックリしました

そして他の誰よりもカメさんが一番不思議に思いました

「わがせん……やつしてそんな事を？」

「カメさん……僕はかけつこのとちゅうでわざと負けよつとズルをした……

けれど君はズルをせずに正々堂々と最後まで走りぬいた。

それは、西宮に立つて、えりこじめだひ細へんだ。

だから、一翻「えらー」ときみたよ」

カメさんはどうしていいか分かりませんでした

「そんな」

けれど

「そうだよ。カメさんが一番「えらい」だよ」

「あたしもそり思つわ。カメさんが一番『えら』よ」

リスさんも小鳥さんもうんうんとうなずいてくれました

ポカソとしているカメさんにウサギさんはいつてあげました

「カメさん。みんなもうこいつくれてるんだ。」

「うのヨで、一番「えらい」は君だ。

「くじわんやキッネさんじんな事を命令してもいいんだよ。」

「ええー?」「そんなー?」

「これにはくじわんもキッネサンもびっくりです

やしで今までずっとカメさんひじこ事を言つてきたので

どんな仕返しをされるんだかわい、とブルブルふるえました

だから、カメさんせすことました

今までずっと言いたかつた事を

それから、カメさんの命令どんの山は少し変わりました

もう、一番「えらい」は「はやこ」ではありますん

でも、カメさんでもありますん

一番「えらい」は「みんな」

みんなが一番「えらい」

だから、だれかがだれかをバカにするような事はなく

みんな仲良く楽しく

幸せに暮らすよくなりましたのです

おしまい

(後書き)

いかがだったでしょうか?

アレンジを加えすぎてほとんどオリジナルに近いものになってしまったウサギとカメ。

本当はもっと原作に近い物にしつたんだけど……

感想・コメントお待ちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9184f/>

ウサギとカメ

2011年1月16日09時49分発行